



見沼小だより

平成29年度第4号

平成29年6月30日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



興味・関心と集中力

校長 大澤 淳

湿度も気温も高い、梅雨らしい天気が続いていますが、学校では子どもたちの元気な声がプールから響き、花壇のひまわりも大輪の花をつけています。いよいよ夏本番です。夏休みに向けて、しっかりと準備をする時期となりました。

ニュースでは、前人未到の公式戦29連勝の記録を打ち立てた将棋の藤井四段が大きな話題です。14歳という最年少で、30年ぶりの偉業は歴史的な快挙と讃えられています。ご本人は、「まだまだ力を蓄える時期。」といつもと変わらない謙虚な言葉で感想を語っていました。その謙虚さはもとより、数時間に及ぶ対局への集中力と持続力は、本当に驚きです。幼少のころから将棋に興味を示し、実力を発揮していたという藤井四段はまだ中学生の棋士ということで、小学生の子どもたちの将棋教室も活気づいているという報道も見ました。

別のニュースでは、体操の内村航平選手が、離れ業5連続のみごとな演技で優勝したこと、またさらに陸上競技では、18歳のサニブラウン選手が、100mと200mを制し、14年ぶりの2冠であることなど、有名な若いアスリートたちの活躍も報道されていました。多くの選手が幼少の頃より習い事をはじめ、自分の才能を見い出しながら努力を積み重ね、大きな結果を生み出しているという事実が、幼少期の育て方についての関心事となり大きな話題となっていることもあわせて報道されていました。

以前の勤務校で、先生たちに小学校時代の夢を聞いたPTA広報誌の取組がありました。大変興味深く、楽しく拝読させていただきましたが、よく見ると小学校時代から「学校の先生」になろうと考えていた教員は多くありませんでした。考えてみれば、アスリートや芸術家のような立場や職業とは違い、幼少のころからトレーニングを積むような職業ではありません。そういう意味では、世の中の多くの職業に就いている人たちもみな同様で、成長する過程の中で、自分の興味・関心や適性を見つけ出し、将来の職業として携わろうと意思を固めてきたのだと思います。小学校のころは漠然としていた興味・関心が、様々な経験を通して淘汰され、選択されてきた過程が必ずあるのだと思います。ですから、小学校の夢とは一致しなくとも、「なぜ今の職業を選んだのか」、「いつ今の職に就こうと決めたのか」といった質問なら、明確な理由と決意の瞬間が聞き出せるのではないのでしょうか。

見沼小の学校教育でも、もうすでに自分の興味・関心をもって習い事をして技術の習得に力を注いでいる子もいるかと思いますが、大半は、これから自分の適性を見付け出そうとしている子どもたちだと思います。その様な中で、私たち学校や家庭が取り組まねばならないことは、子どもたちができるだけ多くの体験をし、自分に適する、あるいは興味をもてることは何なのかを時間をかけて見つけていく支援・援助をすることだと思います。興味・関心をもって取り組むことで、集中力や持続力、継続する力が確実に身に付きます。どんなことでも無駄はないと考えています。子どもに夢をもたせ、将来に向けて育んでいけたらと思っています。